

## 「国語教育研究 I」の授業の検討

国語教育講座 中西 淳

### 1. 授業の概要

本授業は、国語教育の問題点を踏まえた上で授業を構成することができるようになるための、授業構想力を養成するところにその特徴がある。目標及び具体的な到達目標は以下の通りである。

<目標>

○国語教育の主要論文・実践や教科書を取り上げながら、国語教育のあり方について考究することができる。

<具体的な到達目標>

○自らの問題意識に即しながら国語科教育に関する主要論文を探し出すことができる。

○論文を批判的視点を持つて的確に読むことができる。

○自らの国語教育観を深めることができる。

これらは、教育学部 DP の以下の二点に該当する。

○自己の学習課題を明確にし、理論と実践を結びつけた主体的な学習ができる。(関心・意欲)

○教育をめぐるさまざまな現代的課題について論じ、適切な対応を考えることができる。(思考・判断)

### 2. 授業の展開

授業の展開は以下の通りである。

- ① はじめに—授業のオリエンテーション—
- ② 学びを考える  
—自分が受けている授業のメタ認知—
- ③ 教育の流れを捉える  
—新学習指導要領と旧との比較を通して—
- ④ 教材価値を考える  
—中学校俳句教材の比較を通して—
- ⑤ 国語力の発達を考える  
—4つの詩の読み比べを通して—
- ⑥ 国語教育における問題を捉える  
—自分が受けた授業を通して—
- ⑦ 世界の国語教育  
—カナダ・オンタリオ州におけるコミュニケ

ーション教育のあり様—

⑧国語教育の問題を考える  
—意見交流を通して—

⑨ PISA 型読解力とは  
—問題の傾向を捉える—

⑩読書指導とは  
—生活に生きる読書指導のあり方—

⑪話すこと・聞くことの教材分析  
—聞くことの重要性—

⑫伝統的言語文化の指導のあり方  
—古典を文学として読む—

⑬国語教育と道徳教育  
—夕焼け論争を通して—

⑭まとめ

受講生は12名である。なお、レポートの課題は次のことに関するものである。

○国語学力論に関する論文のまとめとそれに対する自分の考え

○論文を読む際に留意すること

○国語科教育についてさらに考えてみたいこと

### 3. 授業の工夫点と留意点

本授業は、基本的に学習者の問題意識に即して授業内容を決定していった。この点が本授業の最も大きな工夫点である。したがって、授業展開における内容は最初から計画していたものではなく、結果的に導き出されたものである。

授業にあたっては学習者の学習状況を把握しながら、次のことに留意した。

①批判的視点の形成

学習指導要領の解釈において、学習者は一般的に『学習指導要領解説』などに頼りがちである。それらに頼るのではなく、自分の目でどのような特徴があるのか捉えることができるよう、批判的視点の形成をねらった比較読みを導入した(「教育の流れを捉える—新学習指導要領と旧との比較を通して—」)。

②国際的視野の形成

PISA 型読解力の話題を契機として、「カナダ・オンタリオ州におけるコミュニケーション教

育のあり方」を取り上げた。国際的視野から国語教育を考えていくことができるようにするためである。

### ③協議力の形成

学校現場では、授業の協議力が問われる。授業は基本的にディスカッション形式をとった。発言の受け方、質問の仕方等に関する具体的な支援を行うことによってその力の育成を図った。

なお、前年の授業と特に異なる点は、E ラーニングシステムのムードルを活用したことである。各自がどのような考えを持っているのか、相互理解を促進するためである。

## 4. 授業のアンケート結果とそのまとめ

授業後に授業方法に関するアンケートを行った。以下、そのアンケートの記述をいくつか挙げる。

- 実際の教科書で扱われている活動を基にどう授業をしていくか考えられてよかった。他の人との意見交換や別の視点での捉え方をすることによって深められた。指導案、模擬授業というところよりも前の段階で、どう自分が考えるか、教材と向き合っていくかということを学ぶことができた。
- 私たちの興味・関心に沿った授業展開であったのは非常に良かったと思います。みんなで決めた課題をどのように考えていくか、どのように捉えたら良いのか、思索を深める良いきっかけとなりました。先生の学生の意見から広げていくという講義のやり方は実際に気になっていることについて考えることができたので良かったと思います。
- 私は学生が問題だと感じている事柄を取り上げて授業で扱うのはとても良かったと思います。教育実習前でもあるし、どうすればいいのかよく分からなかったものから取り上げることで疑問の解決にもつながるし意識を高めるという点でも効果的だったと思います。
- 自分たちの「知りたい」と思う課題について知識を深められる授業であったので、比較的意欲的に取り組むことができた。他の授業に比べても、自分が今一番考えたい話題・問題について触れていたのがやりがいがあった。
- 自分たちの中から出てきた課題意識に即したテーマだったので、良かったです。また先生から講義を受ける部分と自分たちの考えを述べる部分のバランスも毎時間ちょうどよかつ

たと思います。

- 私達の問題意識から授業を立ち上げるというのは、私達も授業の内容を自分の問題として捉えることができ、決められたカリキュラムで進んでいく授業より学びが深まったのではないかと思った。また、受講者のお互いのレポートを読んだり、それぞれが持っている問題意識を全員で共有できたのは、他の人が何について考えているか知ることができてよかったと思う。
- 自分たちの興味・関心即して展開して下さったのがとても良かったです。また、自分が気になること・国語教育の課題について書いたものを共有することができたので、他の仲間がどんなことをどんなふうにいま考えているのか少し知ることができたのが良かったなと思います。
- 私たちが出して問題を取り扱っていただけて良かったです。まだまだ知らないことが多いので、先生がテーマを決めてくださっても、私にはとても勉強になります。しかし、15回しか授業がないことを考えるとすべての問題を考えることは難しいので、私たちが特に知りたいと思うことを授業していただいても助かりました。
- 後半の授業のやり方は僕は先生です。少人数だからかこそ、このようなやり方ができると思います。むしろ15回このやり方でいいくらいだと思います。
- 知りたいことを学べるというスタイルは受け入れやすいし、関心ももちやすいと思う。自分はよかったと思う。  
アンケートを見る限り、問題意識に即して授業内容を構成していくという展開に対する評価は高いといえよう。また、ムードルを使用した意見交流も好評であった。また、レポートの内容からは、国語教育のあり方についての考究的態度が育成されている様子も伺えた。授業の工夫の効果はあったように思われる。  
また、印象に残った授業として、「国語力の発達を考える—4つの詩の読み比べを通して—」教育の流れを捉える—新学習指導要領と旧との比較を通して—」「国語教育と道徳教育—夕焼け論争を通して—」「伝統的言語文化の指導のあり方—古典を文学として読む—」が上位を占めた。  
来年度も同様の展開で進めるのがよいと思われる。

